NEWS

JAAF HIROSHIMA

陸協ひろしまニュース

一般財団法人 広島陸上競技協会

第102号

R5.6.24発行

「日本グランプリシリーズ グレード1」

第57回織田幹雄記念国際陸上競技大会

兼 WAコンチネンタルツアー ブロンズ大会

57th M.ODA

支えられて57回、織田から世界へ

織田陸は、後進の育成強化を目指して1967年に創設された。以来、支えられて57回。今年も開催ができた。「できた」と書くと何故と問いかけられそうだが、これだけの規模の大会を毎年実施するのはなかなか大変だ。多くの方々の支えがないとできない。キリンビバックス、ミズノ、セイコーグループをはじめ青少年健全育成協力企業の皆様には、屋台骨として今年もしっかりと大会を支えていただいた。本当にありがたいことだ。そして、織田から世界へとその第一歩を踏み出す選手達は多い。今回も出場している山縣亮太、髙山峻野、福部真子の各選手はすでに世界で闘っている。オリンピアンであり日本新記録樹立者でもある。どの選手もジュニア時代からこの織田陸で競技し活躍してきた。嬉しいことだ。今大会、楽しみな選手がいた。大学生の樫原沙紀選手だ。1500mで3位に入賞した。ジュニア時代からこの織田で走り活躍している。本大会は、創設以来ずっとジュニアの選手達の活躍の場だ。そしてそれは、世界に踏み出す第1歩となって来た。今年も支えられて第57回、織田から世界へ、多くの選手達がそのスタートをきったに違いない。

専務理事　河野裕二

57th M.ODA

日本グランプリシリーズ
JAPAN TRACK & FIELD GRAND PRIX SERIES

WORLD ATHLETICS Continental Tour Bronze

第57回織田幹

兼 WAコンチネンタルツアー ブロンズ大会

●日時／2023年4月29日(土・祝) ●場所／

織田幹雄と大会の歴史

織田幹雄記念国際陸上競技大会は、陸上競技選手の織田幹雄さんの功績を称えて創設された大会です。

織田さんは1928年の第9回オリンピック・アムステルダム大会に出場し、三段跳びで15m21cmという記録を出して金メダルを獲得しました。この出来事は日本人初のオリンピック金メダリストという快挙でした。その後も三段跳びで15m58cmを出して世界記録を塗り替えるなど第一線で活躍し、第10回オリンピック・ロサンゼルス大会を後に引退されました。

引退後はスポーツ記者として奔走しながらも選手への指導も積極的に行い、1964年の第18回オリンピック・東京大会の招致が決まると日本陸上競技連盟(JAAF)の強化委員長を務め、東京オリンピックの開催に寄与しました。大会中は陸上競技日本代表の総監督を務めました。

「陸上の神様」「日本陸上界の父」と呼ばれ、戦後の日本陸上界を牽引してきた偉大な人物であり、1979年に国際オリンピック委員会のオリンピック功労賞を受賞、2021年には世界陸連のヘリテージプラークのレジェンド部門に選出され表彰されました。

数々の記録・功績を残してきた織田さんは広島県出身であることから、1967年に広島で第1回・織田賞陸上競技大会が開催され、「織田記念」「織田陸」と呼ばれて多くの方々から親しまれています。

本大会は日本グランプリシリーズの1つであり、世界選手権大会やオリンピック開催年には代表選手の選考を行う上で重要な役割をもつ大会でもあることから、毎年多くの選手が出場し、記録と記憶に残る戦いを繰り広げています。

オリンピック・アムステルダム大会の織田幹雄
画像提供：中国新聞社

記録は作れるが勝つことは難しい

織田幹雄

Mikio Oda

Track and Field

幹雄記念国際陸上競技大会

広島広域公園陸上競技場（エディオンスタジアム広島）

広島は「陸上の神様」のふるさとである。

「日本陸上界の父」とも呼ばれたその偉人の名は織田幹雄さん（1905 - 1998）。およそ100年前に競技を始め、指導者不在、全国大会への出場も直談判という環境下ながら精進を重ねて世界の扉を開いたのは広島高等師範学校臨時教員養成所2年、18歳の時。ここ広島からパリ五輪（1924年）に初出場したのだった。日本人初、アジア人初の金メダリストになるのは、その4年後のアムステルダム五輪（1928年）でのことである。その偉業を称えて創設された試合、織田幹雄記念国際陸上競技大会は今年で57回を数え、日本グランプリシリーズグレード1兼 WAコンチネンタルツアーブロンズ大会として全国のトップ選手が集結し、4年ぶりにコロナ禍以前の環境で4月29日にエディオンスタジアムで開催された。そこには、広島で陸上を始めて各地へ巣立って行ったアスリートたちが帰郷し、それぞれの決意を胸にレースに臨む姿があった。その中でも「陸上の神様」の思いを受け継ぐかの如く世界を目指す4選手の奮闘を振り返ろう。

写真提供：中国新聞社

山縣亮太 ―― おかえりなさい

「おかえりなさい。」――心からその言葉を贈りたいのが山縣亮太選手（セイコー）だ。「膝の手術から約1年半ぶりの競技復帰を織田記念で果たしました。」というように、実に581日ぶりのレースに挑んだ。男子100m予選に出場して10秒48（+0.5）。数字では表すことができない大きな価値と意味のあるレースになったに違いない。「復帰しました」ではなく「復帰を織田で果たしました」という言葉選びから、メスを入れると決めてから試合に戻ってくるまでの道のりの険しさを推察できるが、前だけを見ている。パリ五輪から逆算して、万全な状態ではないながらもスタートラインに立ち、実戦の場で感覚を戻していきながら、さらなる成長を目指すルートを選択したことに敬意を示したい。そして、「パリ五輪に向けて頑張ります。故郷のみなさんの応援が力になります。また皆さんとお会いできること楽しみにしています。」という覚悟の船出を誇りに思う。

●生年月日／1992年6月10日生まれ●所属／セイコー●自己ベスト／100m:9.95（2021.6 布勢スプリント）、200m:20.41（2013.5関東インカレ）●主な代表歴／オリンピック（20東京、16リオ、12ロンドン）、世界選手権（13モスクワ）、アジア大会（18ジャカルタ、14仁川）●日本記録保持種目／100m

写真提供：中国新聞社

さらなる高みへ ―― 高山峻野

中広中時代に全中4位、それから6年後に日本選手権初優勝。2019年には日本記録保持者（当時）になった高山峻野選手（ゼンリン）。昨年マークした13秒10は2022年日本ランキングトップと年次ごとの着実な歩みが光る。今回は6月の日本選手権を照準に見据えて男子110mHに出場して13秒47（+0.3）。「優勝できませんでしたが、地元の方々の声援を受けて気持ちよく走ることができました。今シーズンまだまだ試合がありますので、広島の皆さまに明るいニュースを届けられるよう、頑張りたいと思います。」と謙虚な姿勢でさらなる高みを目指す。

●生年月日／1994年9月3日生まれ●所属／ゼンリン●自己ベスト／110mH:13.10（2022.8実業団・学生対抗競技会）●主な代表歴／オリンピック（20東京）、世界選手権（19ドーハ、17ロンドン）、アジア大会（18ジャカルタ）

福部真子 ―― 現在進行形で進化

写真提供：陸上競技マガジン

●生年月日／1995年10月28日生まれ●所属／日本建設工業●自己ベスト／100mH:12.73（2022.9全日本実業団対抗選手権）日本記録●主な代表歴／世界選手権（22オレゴン）●日本記録保持種目／100mハードル

福部真子選手（日本建設工業）は女子100mH予選からいきなり12秒95（+0.6）をマーク。シャープでリズミカルな芸術的な走りと、あのはじける笑顔で観客を魅了した。「織田記念がシーズンの始まりなので、良いスタートを切れたらいいなと思いながら走りました」という思惑通りになった。昨シーズン後の冬期練習では、パリ五輪のファイナリストを目指して例年以上に筋力を高め、パワーアップを図ってきたという。走力が上がった状態で理想とするハードリングの感覚にはマッチしていないであろう段階での12秒台に確かな手応えを掴み、「今後につながる良いレースができました。世界との差を縮めるために挑戦し続けたいと思います。」と視界良好だ。

新たなステージへ ―― 樫原沙紀

●生年月日／2001年11月12日生まれ●所属／筑波大学陸上競技部●自己ベスト／800m:2.06.37、1500m:4.13.82●主な成績／2022年日本選手権800m3位、2023年学生個人選手権1500m優勝、2023年関東インカレ1500m優勝（2連覇）、2023年SEIKO GGP1500m8位

昭和中時代に女子1500mで全国制覇を成し遂げ、呉三津田高校を経て上京した樫原沙紀選手は「筑波大学に進学してから初めて参加した地元のレースでした。当初、地元でいい走りができるか不安でしたが、多くの方に応援していただき、とても楽しく走ることができました」と今大会を振り返る。中学時代に輝かしい実績を残しているだけに、表彰台を逃し続けた高校時代は、もどかしい思いもあったかもしれない。大学入学後、2021年に4分13秒82（学生歴代3位）をマークすると昨年は800mで日本選手権3位。今回は、ユニバ代表を決めた日本学生個人選手権優勝を経て女子1500mに出場して4分20秒18（3位）だった。「幼い頃から織田陸上に出場し、グランプリの選手に憧れを抱いていました。選手として出場することができて本当に嬉しかったです。ユニバーシアードで初の日本代表に選出していただいたので良き糧に出来るよう精進します」と誓った。

「陸上の神様」に限界説がささやかれたのは、金メダルを獲得する前のことだ。今大会のポスター、プログラムに記された「記録は作れるが勝つことは難しい」ということを広島から挑んだ初の五輪で痛感したのであろう、次の五輪で勝つために大幅な底上げを図ることを決心した。その過程で怪我をしてスランプに陥り新聞等で「もう限界にきている」と報道されたそうだ。だが諦めず、苦難の末に自身のジャンプを完成させて金メダル獲得を成し遂げたのだった。広島で過ごしたジュニア期から脚光を浴びてきた、山縣選手、福部選手、髙山選手、樫原選手。それぞれに紆余曲折を経て、試行錯誤しながら世界へと続く道を進んでいる。いい時もあれば、迷ったり、落ち込んだりする時もあるかもしれない。そのような時には故郷を思い出してほしい。いつでもどんな時でも、その挑戦を心から応援し、尊敬し、信じている人々がいることを。そして、「陸上の神様」がきっと見守って下さっていることを。

あいにくの悪天候でしたが、子供達が元気いっぱいに取り組んでいただけたので楽しく教室をすることができました！

セイコーわくわく スポーツ教室

Seiko Exciting Sports School

昨年度から始まった小学生イベント。三宅会長の「子ども達が陸上競技の楽しさに触れる機会を織田記念陸上の中で作ってやれないか」という言葉から計画が始まった。昨年度は小学生にお馴染みの50mの距離をトップ選手と走ってみようと、セイコースマイルアンバサダーの福島さん、セイコーの山縣選手、ミズノの市川選手、大阪成蹊大学の金丸先生、ダイソー所属「広島Salire」の車椅子ソフトボールの江南選手に講師をお願いした。今年もセイコースマイルアンバサダーの福島さんが来てくれることになり、実施を計画した。セイコーわくわくスポーツ教室は「本物」のアスリートと共に「本物」の機材を使い、子供たちにスポーツ教室の楽しさを伝えている。あいにくの雨でイベントは室内スペースのみの実施となったが、参加してくれた子ども達はみんな笑顔を見せてくれた。来年度以降もチャンスがあれば三宅会長の言葉をさらに発展させたイベントを実施したい。

写真提供：©落合直哉

強化委員長（イベント責任者）　松谷　清志

デカチャレ

JAAF Japan Association of Athletics Federations

今大会では、日本陸連の講師を招き、「キッズデカスロンチャレンジ」を実施した。キッズデカスロンチャレンジ（通称デカチャレ）とは、「キング・オブ・アスレティックス」と呼ばれる、陸上の十種競技（デカスロン）にちなんだ、多種目の基本運動（走・跳・投）にチャレンジする日本陸上競技連盟のキッズ向けプログラムである。雨天のため、1階入り口通路において、走（10m走）のみの実施となったが、小学生を中心に65名が参加し、スタートダッシュの感触を楽しんだ。

指導普及委員長　石川　和明

セイコー 踏切判定システム

写真提供：©落合直哉

セイコーの踏切判定システムは昨年度の織田陸上ではテスト用としてセットした。競技運営には使用しなかったが、2022年の世界室内、世界陸上、セイコーGPでは公式判定機器として使用された。国体強化記録会の際に、跳躍審判の方から使用を提案され、セイコーに相談し、提供していただける運びとなった。

利点は

①踏切の瞬間が映像で表示され、審判員と競技者が見ることができ判定に納得できる。

②踏切板の周辺に審判員がいないため、観客からはすっきりする。

③判定が有効試技（緑）、無効試技（赤）のランプで表示されるので多方面から確認しやすい。

④映像は保存され、後からでも確認することができる。

競技運営委員長　田川 司

↑ランプ

↑モニター

↑判定 PC

織田幹雄と海田町

本大会の大会名を冠している織田幹雄氏は、ご存じのとおり、日本人初の五輪金メダリスト（三段跳）であり、我が海田町出身の偉人である。本大会では、数年前から 海田町より高校生三段跳で優秀な成績を収めた選手への「織田幹雄賞」授与や、織田幹雄氏の偉業や人間力を発信するため、海田町ブースを設けさせていただいている。今大会では雨が降る中の競技となったが、織田幹雄賞を受賞した選手のみならず、持てる力を出し切った全ての選手に敬意を表し、今後の活躍に期待したい。海田町のブースでは、織田幹雄氏の競技写真を中心に展示を行った。現代とは異なる環境の中、記録を出し続けたことを感じてもらえただろう。海田町では織田幹雄記念館においても、多くの展示をしている。是非とも足を運んでいただければ幸いである。

海田町長　西田 祐三

安心・安全を スタジアム救護活動

科学委員会では、各大会にて医師・看護師・救急救命士・トレーナーが連携し、救護活動を行っている。織田記念陸上のような大きな大会では、日本陸連が推奨しているスリーステーション制（メディカルステーション、スタジアム救護ステーション、トレーナーステーション）を採用し活動している。さらに今大会では、オリンピックや日本選手権等と同様に救護リーダーが上層階よりスタジアム全体を観察、指示する体制をとり、より迅速な発見・対応を可能にした。また、2025年の広島でのインターハイに向け、冷水浸漬についての研修・実践も今大会からスタートさせている。今後も広島での陸上競技大会が安心・安全に行えるよう活動していきたい。

科学委員会　トレーナー部長　相川 貴裕
（広島文化学園大学）

広島陸上競技協会はSDGsに取り組んでいます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
12 つくる責任 つかう責任
16 平和と公正をすべての人に

ダイソーチャレンジ

広島県で陸上競技をする中高生が減少していることから、小中学生の競技人口の増加と強化を目標として、令和3年（2021年）に開催スタート。参加費は、ダイソー店舗の商品価格と同じ110円に設定。1年間に7大会（記録会6回、ロードレース1回）を実施し、小中学生だけでなく、一般の方にも走る機会を与え、競技の普及を目指している。また、今年度は部員全員が陸上競技の公認審判員資格を取得し、競技会の運営サポートをしている。

ダイソー女子駅伝部　監督　岩本 真弥

中国電力ランナーズスクール

中国電力の「エネルギアランナーズスクール」は、すべてのスポーツの基本である「走る」こと、中でも中距離走を通して、子どもたちに体を動かすことの楽しさや喜びを実感してもらうとともに、陸上競技の基本を身に付けていただくことを目的としている。また、オリンピック選手を輩出している当社陸上競技部選手の指導により、子どもたちに「世界へ挑戦する」という大きな「夢」を持っていただきたいと考えている。

中国電力陸上部　油谷 繁

再生紙を使ったADカード

広島陸上競技協会は織田幹雄記念国際陸上競技大会のAD（アクレディテーション）カードを全て折り鶴再生紙で作成した。折り鶴再生紙とは、広島市平和記念公園に全国から届く折り鶴を再生紙に変え循環させるプロジェクトである。広島陸上競技協会も平和の思いを未来へ繋ぐとともにSDGsを意識した取り組みのひとつとして、ADカードを作成した。

総務副委員長　二反田 亘

青少年の夢を応援します！

青少年健全育成協力企業

- 中国電力株式会社
- COCOKALAグループ T&TWAMサポート株式会社
- 株式会社エディオン
- 株式会社大創産業
- 株式会社ツルハグループ ドラッグ&ファーマシー西日本
- 広島駅弁当株式会社
- 広島菅公学生服株式会社
- 株式会社中電工
- アシックスジャパン株式会社
- 株式会社合人社グループ
- 株式会社ひろぎんホールディングス
- JR西日本プロパティーズ株式会社 広島ダイヤモンドホテル
- 株式会社もみじ銀行
- 株式会社いとや
- 株式会社ウイズアート
- 株式会社体育社
- 株式会社ニシ・スポーツ
- 株式会社BTM
- 広島ガス株式会社
- 広島経済大学
- 広島文化学園
- 株式会社安芸葬祭
- 有限会社大竹交通

特別協力企業

- ミズノ株式会社
- 株式会社キリンビバックス

（順不同）

令和5年6月24日　〒730-0011 広島市中区基町4番1号（公財）広島県スポーツ協会内　Tel.082-223-3256 Fax.082-222-6991　E-mail:haaa@eos.ocn.ne.jp　URL https://hiroshimatf.org
編集委員　藤原 文代・奥村 恵美子・山田 貴子・鈴木 晶雄・安達 力輝・木本 慎吾・山下 理恵・中野 裕貴子・宮崎 博子・藤森 順子